

きららクラブ金山 女性委員会も活動中

岡町社会福祉協議会 ☎52-7093

7月26日、町改善センターできららクラブ金山（町老人クラブ連合会）女性委員会（委員長岸綾子）のメンバーら約20名が参加し、“友愛の



絵てがみを描こう”勉強会が開催されました。

講師には画家としても有名な金山中上村校長先生をお迎え。

「ヘタでいい、ヘタがいい」を

モットーに、季節感や心の豊かさ

が伝わるような絵てがみを目指して作成しました。茄子やかぼちゃ、ムクゲの花など、それぞれが持ち寄った季節の植物を題材とし、サインペンでふち取りをしてから、絵の具やパステルなどで色付け、ひと言を添えて仕上げていました。

「難しかったけど、とても楽しかった」と参加者全員が笑顔で鑑賞し合い、早速友人に送ることを約束して、この日は散会となりました。

この活動は「友愛の絵てがみを出そう運動」として県老人クラブ連盟の高齢社会における地域の支え合い強化の一策でもあり、金山町が先駆けて実施したのになります。今後も楽しみながら、定期的に事業を展開していく予定です。



真剣に絵てがみを作成する皆さん

金山特使 参加した中高生ら14名志高く

岡産業課 農政係 ☎52-2111

8月8日～10日、農業に従事している若者や農業を志す中高生ら14名が「金山特使」として東京都内に派遣され、研修会に参加しました。これは、これからの金山の農業を担う若者に、自分たちの作った農産物はどのように流通しているかなどをメインに、現場を視察しながら学んで欲しいと、町が昨年度に引き続き、企画したものです。

一行は大田市場、大型精米工場、食と農の科学館及び都内主要販売店などの視察を行いました。大田市場では金山産のキュウリが競りにかけられていたり、精米工場では金山産のはえぬきが精米されていたりと、実際に地元で作られている野菜やお米が消費者の手に届くまでの過程を知る良い機会となりました。また、食と農の科学館では、稲作だけではなく、醸造や畜産など様々な分野について見学をすることができ、大変実りのある研修となりました。



当町においても、農業の後継者問題は緊急かつ



「金山特使」のメンバーのみなさん

大きな課題です。この3日間は契機となり、未来の青年農業者が、金山でも数多く誕生することを願います。

8月8日～10日の3日間、山形大学地域連携型サークル「チーム道草」のメンバー約10名による金山中学生への学習支援教室を実施しました。これは町教育委員会の学力向上対策事業の一環として、この冬受験を控える3年生を対象に行っているもので、初日の8日には32名の生徒が参加しました。



チーム道草の現代表である完野雄介さん（山形大3年）は、今回が講師として5回目の参加。「楽しみながら自然とお互いが打ち解

けられることを重視したい。勉強以外でもプライベートや将来のことを相談できる仲間になれば」との思いから、冒頭にはクイズ大会が行われ、どこか緊張感が漂っていた教室も笑いに包まれました。

しかし、国語・数学・英語の3科目に分かれて、講座が始まると一変、真剣な表情で学生たちの指導を受ける中学生の皆さん。笹原梨太郎さん（七日町）は「学生の皆さんは歳が近く、分からないことも聞きやすい」と話していました。

この学習支援教室は受験対策の仕上げとして冬期間にも開催される予定です。

山形大チーム道草 金山中生へ 学習支援教室

岡教学課 生涯学習・社会教育係
☎52-2902



分からないところは学生に聞きながら実力テストの過去問を解く金山中生たち